

乳児期の音楽表現1

～視覚的環境と保育士のかかわり～

小山 朝子

(北区立滝野川保育園)

1. はじめに

筆者は「乳幼児期におけるコミュニケーションとしての音楽表現1～4」の本学会報告において、音楽表現を音楽を手段とした子どもの表現としてとらえ、事例における内面的な動きの考察を行ってきた。そして、特に乳児期においては保育士(大人)とのかかわりが子どもの表現の育ちの重要な位置にあることを再確認し、さらに他の環境とのかかわりを含め、研究を深めていきたいと考えている。今回より乳児期に焦点をしばらくして事例考察をおこなっていくこととする。

2. 事例記録について

(1) 事例対象児について

東京都北区立滝野川保育園 H14年度1歳児クラス

(ありぐみ) 16名保育士4名

・高齢児グループ8名・男児5名、女子3名

(4～7月生まれ) 昨年度0才児クラス4月より

入園(在園児)担当保育士は持ち上がり保育士1名と筆者

・低齢児グループ8名・男児3名、女子5名

(9～3月生まれ) 今年度1才児クラス4月より

入園(新入園児)担当保育士は2名

今回は筆者が担当した高齢児グループ8名を対象とし、期間は4～10月29日とする。

(2) 方法

毎日の保育を行う中で保育時間外にメモを取り記録を行うようにする。録音等は現在の状況では保育に支障が出る可能性があるとして筆者が判断し、この時点では行っていない。

(3) ギャラリーコーナーについて *資料参照*

5月よりあいているロッカーを利用し、保育士が個人的に担任が撮影した写真をギャラリー風に3点飾った(ちょうちょう、かえる、昆虫。)そこでは、うたと結びつきやすかったちょうちょう、かえるでの事例が多く見られた。

3. 事例

Sちゃん(7月生まれ)

【事例1-1】(1歳11ヶ月) 2002.6

「てんで・・てん・・」と保育士をよんでギャラリー

の写真を指さす。保育士「これはなーんだ?」と保育士も指さしして本児にきくと、「～るう、ゲッ」とこたえる。保育士が少しオーバーに「あったりー!」といって両手を広げ動かしながら♪かえるのうたが～♪とうたうと、同じ動きをしようとしながら♪ダーダーがー♪と一緒にリズムをとり発音がはっきりしないながらもうたう。「Sちゃん上手にうたえるねー」と保育士がいうと「ゲッゲッ」とジャンプしながら鳴き真似をする。

【事例1-2】(1歳11ヶ月) 2002.6

川沿い遊歩道の散歩の時にちょうちょうが3匹飛んでいるところを見つける。保育士はその時「ちょうちょうもお散歩しているねー♪ちょうちょう～♪」と指さしながらうたうと、子ども達も加わり大合唱となる。保育室に帰ってきて「とーといたねー、こーてんでー」と発音がはっきりしないながらも話しかけてきたので「そうだねーきれいだったねー」とこたえる。その後しばらくして、Sちゃんは「てんでーとーといーねー」とギャラリーの写真の指さして話しかける。保育士は「そうだね。このちょうちょうさんとは色が違うけど、白いちょうちょうが3匹もいたんだよね」とこたえる。するとニコッと笑ってギャラリーに顔を入れるようにしてじつとのぞきこむ。

【事例1-3】(2歳) 2002.7

Sちゃんが写真をのぞき込んでいる。そばにいた保育士が「Sちゃん何見ているの?」と声をかけると、Sちゃんが答えようとしたところ、そばにいたMくんが「とーとーとー」と保育士に教えようと写真を指さして答える。Sちゃんは「ヤーッ!」と大泣きしてMくんをたたく。

【事例1-4】(2歳1ヶ月) 2002.8

Sちゃんがギャラリーにもたれかかるように肘をついてちょうちょうの写真をのぞき込んでいる。そのうち小さな声で♪ちょーちょー・・♪と口ずさみはじめる。少しずつその声が大きくなってくるとFくんがそれに気づいて同じギャラリーコーナーに入ろうとする。Sちゃんは「ヤーッ!」とものすごい勢いで怒りたそうとする。それでもFくんが再び入ろうとするので押して拒否をする。

【事例1-5】(2歳3ヶ月) 2002.10

ギャラリーのかえるの写真を見ながら♪かえうーうた

だー♪と「かえるのうた」をうたっている。そこにRくんがSちゃんの様子を見つけてやってくる。Sちゃんがめいいっぱい肘を広げているところにRくんは首をのぞかせて、Sちゃんのうたにあわせて一緒にうたいます。Rくんの姿に気づいたSちゃんはギャラリーの場所を少しゆずって顔をみあわせ楽しそうに歌い続ける。そこにMくんがやってくるがSちゃんは嫌がり「ダメッ」という場所をゆずらない。

※以下【事例2～4】は事例考察と共に資料参照

4. 事例考察

(1) Sちゃんの事例

【事例1-1】から【事例1-5】を通してSちゃんのギャラリー写真を通しての様子を追ってみた。まずSちゃんのそれぞれの事例における内面的な心の動きについて整理してみる。

- ・【事例1-1】ギャラリーコーナーの写真を通して保育士とのかかわりを求め、保育士が応えたことで、本児の気持ちが肯定され満足していると考えられる。

- ・【事例1-2】散歩での楽しかった経験(ちょうちょうを見た、友だちや保育士と一緒にうたったなど)が写真と結びついて思い出し、楽しさを保育士と共有している。

- ・【事例1-3・4】ここではSちゃんは写真を見るという行動だけでなく、ギャラリーコーナーそのものを自分の場(空間)として楽しんでいる姿があると思われる。つまり、ギャラリーコーナーを一人になれる場として活用しているとも言える。さらに“その場を誰にもじやまされたくない”という場(空間)への固執もでてきていることが、他児とのかかわりでみられている。

- ・【事例1-5】ここではSちゃんとRくんとの肯定的なかわりが見られた。SちゃんとRくんはグループの中でも気の合う友だち(互いに遊びや生活の中で受け入れられることのできる友だち)同士となりSちゃんが2歳になった頃より、二人がかわる姿が増えてきている。つまり、この事例で一緒にうたい楽しむというのは、この二人の関係だからこそ成立するものと考えられ、SちゃんはRくんとギャラリーコーナーという空間を共有することを喜び楽しむ音楽表現といえるであろう。それはMくんが入ってくることを嫌がっていたことから伺えることが出来る。

5. 総合考察

(1) ギャラリーコーナーを通しての乳児期の音楽表現

写真という視覚的教材を使った環境作りは、保育現場においてよく行われている。ことに乳児期の子どもに

とって日常生活や遊びの中での様々な経験と直接的に結びつきやすいという点で興味関心を持つことが出来ると言われている。今回は奥行きあるロッカーを写真を利用したギャラリーコーナーにすることにより、写真と共に自分だけの楽しめる空間への所有感も現れた。集団で過ごす園生活では、自分だけの空間(居場所)というのは、一人になれる心地よい貴重な一空間であり、大切な一環境である。対象児がこのコーナーを通して自発的な音楽表現をして、一定の発達する姿がみられるのは、この視覚的環境の一効果と所有感の現れといえるだろう。Sちゃんの事例の姿をまとめると以下のようになると考える。

写真をみることの保育士との共有
↓
自分のものとしての空間の固執、経験と結びつく楽しさ
↓
友だちと共有する喜び

以上の姿は、Sちゃんには現れたが、MくんやFくんには月齢がSちゃんより高いにもかかわらず、この時点においてあらわれていない(【事例2】 【事例3】)ことから個人差は大きくさらに長期における事例考察が必要である。

(2) 保育士がかかわりうたうことの意味

ギャラリーコーナーを通しての子どもと保育士のかかわりについてみると、事例の多くは子どもの様子や状況に応じて声をかけ、うたう保育士の姿がみられる。持ち上がり保育士は、0才児の時から常にその場に合った歌をうたうことを取り入れてきたそうである。そのようなかわりが子どもの音楽表現にどのような意味を持つのか。

保育士が子どもとかかわりうたうことは、子どもの注目を得るという意味では、子どもとかかわる手だてとなる。それによって今いる環境と意識して関わる、つまり環境への気づきを得られると思われる。その気づきは保育士との環境の共有であり、楽しさの共有となり、さらには友だち同士の共有へと広がっていくであろう。つまり、保育士が子どもや環境にあわせてうたうことは、その場の環境を肯定しつつ、‘共有する楽しさの経験’を与えていき、心地よいときに鼻うたをうたうことと同じように心地よく受け入れられるところがあると思われる。

6. おわりに

今後は視覚的環境・人的環境の音楽表現に対する効果を確認するために、さらに事例記録を重ねていくことが不可欠である。今後多くの事例を取り上げ、考察を進めていきたい。